教会CS新聞「いずみのひろば」はぜひ、教会の人と一緒に読んでください。

いずみのひろば

2025年8月号
日本基督教団泉教会
NO.558 教会学校

『 ソドムとゴモラ 』

（創世記18章 20～28節）

神さまはアブラハムに、「わたしはあなたを祝福する。あなたは世界中の、たくさんの人たちのお父さんになる」と仰いました。その約束を信じて、アブラハムは行く先も知らないで出発しました。その時、甥っ子のロトも一緒に旅立ちました。

それから何年も経ちました。アブラハムもロトも、飼っている羊がたくさんになったので別々のところに住むことにしました。ロトはソドムの町に住みはじめました。

ところがそのソドムとそばにあるゴモラ町は悪いことでいっぱいの町でした。みんな平気でウソをつき、乱暴や泥棒をし、イジワルをしてばかりだったのです。神さまはそれをとても悲しまれ、ついに、「ソドムとゴモラを滅ぼそう」とお決めになったのです。

アブラハムはそれを聞いてビックリしました。甥っ子のロトや家族のことが心配です。そこでアブラハムは神さまにお願いをしたのです。

「神さま、もしソドムとゴモラの人たちの中に、神さまのことを信じる人が50人いたら、滅ぼすのをやめてくれませんか？」。神さまは、「それならば滅ぼさない」と仰ってくださいました。アブラハムはホッとしました。

けれども、だんだん心配になってきました。「神さま、それでは神さまを信じる人が45人だったらどうしますか？」。神さまは仰いました。「それならば滅ぼさない」。

でもアブラハムはやっぱり心配です。「では、40人なら滅ぼしますか？」、「いいや、滅ぼさない！」。「神さま、どうぞ怒らないで聞いてください。30人ならどうしますか？」、「いいや、滅ぼさない」。「20人ならどうしますか？」、「20人いたら滅ぼさない」。

アブラハムは最後に、「もし神さまを信じる人が10人しかいなかったら？」と聞きました。すると神さまは「信じる人、正しい人が10人いるなら町を滅ぼさない！」と約束してくれたのです。

ところが、ソドムとゴモラの町には神さまのことを信じる正しい人は10人もいなかったのです。…ソドムとゴモラの町はどうなってしまったのでしょう？　火山が爆発した時のように、硫黄の火が降ってきて、町が全部焼け、滅ぼされてしまったのです。

これはとても恐ろしい話です。でもとても大切なお話です。それは「神さまは悪いことを嫌われるお方だ」ということです。神さまはわたしたち人間の悪い心や悪い行いを、それがたとえ小さくても、おゆるしにならないのです。

でも、その神さまはこの世界や人間を滅ぼさないことにしたのです。それは、神の御子イエスさまがわたしたちに代わって十字架で滅ぼされてくださったからです。わたしたちのために十字架に架かって、神さまに「ごめんなさい」と謝ってくださったのです。

わたしたちは神さまに滅ぼされてもおかしくない悪い心の持ち主です。悪いことばかりしてしまいます。でも、イエスさまがわたしたちのために十字架に架かってくださいました。このイエスさまこそ世界の救い主です。　（おはなし：内田 和 せんせい）